

2018年度 事業計画／予算

【海外事業】



キリマンジャロ国立公園に広がった裸地で植林に取り組む村人たち。彼らにとって植林とは、森林保全である以上に水源を守り、持続的な森林資源の利用を可能としていくための、生活防衛の手段そのものだといえます。“Msitu ni uhai”（森は命）。彼らのその言葉がすべてを物語っています。

概要

キリマンジャロ山に長く暮らしてきた人々の生活を無視して拡大された国立公園。そしてその結果引き起こされた深刻な人権、生活権の侵害。この問題を解決するために村々が連携して立ち上げた地域代表組織 KIHACONE（Kilimanjaro Half-mile forest stripi Cinservation Network）は、県政府の命令によって実質的に解散させられ、人々はこの問題に対して声を上げることが封じられてしまいました。

したがって 2018 年度は何よりも、地域そして地域住民がこの問題に声を上げ、抗議する正当な権利を取り戻せるようにしていかなくてはなりません。また彼らが再び力を合わせ、連携を図っていくための体制の再構築が欠かせないものとなります。そのためには、登録を抹消された KIHACONE に代わる新たな地域組織の立ち上げが目標となります。そして当然ながら、新組織は容易に政府の干渉を受けない体制であることが求められます。

住民側の体制再構築とともに、政府レベルでは国会を通じた法改正（住民の生活の森を外した形での国立公園境界の再策定）を目指します。そのためには国会議員との関係作りが必要になってきます。これまでも陳情という形で個別に国会議員に働きかけたことはありましたが、国立公園の問題で複数の国会議員と連携していく体制を築きます。これは住民組織以外にも、問題解決に向けた主体的な動きがかかるようにするためのものでもあります。

そして 2018 年度中に、最終的にはマグフリ大統領に直接問題を提起することを目指します。

1. 世界遺産キリマンジャロ山における国立公園の拡大にかかわる問題の解決および旧バッファゾーンにおける地域主体による新たな森林保全・管理の実現に向けた取り組み

(1) 地域連携体制の再確立

地域の人々が再び力を合わせていくための新たな土台（地域組織）を整備し、その政府登録を目指します。また新組織は容易に政府の干渉を受けないよう、これまでとは異なる体制のもとに立ち上げます。これは従来の KIHACONE が山麓の村々を代表する地域組織であったのに対し、新組織は広く県全体、更には複数県を代表し得る地域組織として立ち上げることを意味しており、そのための陣容を整えます。

(2) タンザニア国会での審議入りを目指す

キリマンジャロ国立公園の境界を定めている官庁公示（Government Notices）を変更するためには、国会での改正決議が必要とされます。そこで国会での審議入りを目指し、国会の常設委員会である環境委員会に対して、国立公園の問題を提起します。また、国会議員に対しても同問題を国会で取り上げるようロビーイング活動を行います。

(3) 大統領への直接面会の実現

マグフリ大統領には、2017 年度末に国立公園拡大による問題を直訴するため、面会を求める書簡を提出しており、その実現を目指します。また、2018 年度中に同大統領がキリマンジャロ州を訪問する可能性が出てきており、その際には村の指導者、山麓住民が直接この問題を訴えられるよう、県議会議員と協力して準備を進めます。

(4) モシ県議会及びキリマンジャロ州全県評議会の議事録入手

国立公園拡大によって引き起こされている人権、生活権の侵害に対し、これに抗議する山麓住民の訴えを政府（州、県）および KINAPA は圧力によって封じ、その存在自体を認めようとはしていません。このような状況を変えていくためには、人権、生活権侵害の存在事実を認定し、問題解決を迫る第三者による裏付けが極めて重要となります。2018 年度は、昨年度登録抹消措置により入手できなかったモシ県議会による HMF 返還要請決議（2015 年度）議事録の入手を再度図ります。入手は地域として行わず、県議会議員の要請による形を取ります。また昨年、国立公園の問題が提起されたキリマンジャロ州全県評議会の議事録についても入手を試みます。2018 年度は政府人権委員会も KINAPA の人権侵害行為を事実認定するとみられ、これらにより、これ以上の住民無視の姿勢に容易に繋がられないようにしていきます。

2. 養蜂プロジェクト

養蜂技術向上のため、一昨年養蜂プロジェクトを導入したキリマンジャロ東山麓のロレ村で、映像資料を用いたレクチャーを実施します。また必要な場合、昨年度技術研修で派遣したルショトの Mwamboa から講師を招請し追加指導の機会を設けます。

3. 改良カマド普及

キリマンジャロ南山麓のシンガ村もしくは東山麓のロレ村で、セメントブラスタリングタイプ5基の設置を行います。またロレ村で設置を行う場合、今後海外から派遣されるボランティアとの協業体制（カマド作りボランティア）が構築できるかを検討します。

4. 裁縫教室

TEACA と協議のうえ、以下のうちより優先度の高いものへの支援を行います。

- (1) 昨年度実施を見送った裁縫教室への大型黒板の設置。現在使っている黒板が小さく、授業に不便を来しているため。

- (2) 練習用の布の装備。通常は生徒が各自で用意することになっていますが、各家庭ではボロ切れまで使っているのが現状で、練習用の布を十分に用意できない生徒がいます。これが技術修得の妨げとならないように支援します。また、ミシン等の機材の消耗品補充を行います。

5. 図書・文具支援

キリマンジャロ山麓の小学校1校に対し、全校生徒への筆記用具（ノート、ボールペン、鉛筆）の支援を実施します。支援先の小学校の選定は、TEACA ないし 2018 年度に設立を目指す地域協議会と協議のうえ決定することとします。

【国内事業】

1. ニュースレター

事務局のマンパワー不足のため、ニュースレターの発行が滞る状態が続いています。従来分量を確保するより、発行頻度を上げ、タイムリーに現地での取り組み状況、情報をお届けすることの方が重要と考えられます。従って今年度より分量を減らし、年4回以上の発行頻度を確保できるようにします。

2. イベント出展

- (1) さくら祭り： 国際協力関係のイベントとは異なる地域のお祭り。2018 年度は久しぶりにコーヒー販売で参加し、昨年からの輸入が開始された「エデンキリマンジャロコーヒー」の販売を行います。
- (2) エコライフ・フェア： 昨年初めて出展したイベントですが、今年も継続出展します。前回はキリマンジャロ山の国立公園拡大による問題を中心にした展示説明を行いました。今回は村の子どもの描いた絵の展示をメインに出展します。手工芸品チームとの合同出展。
- (3) グローバルフェスタ： 2018 年度は現地調査と重なってしまうことから、手工芸品チームとしての参加で計画します。

3. ぼれぼれカフェ/メンバー懇親会の開催

当会の活動に気軽に触れ、参加の機会としていただくため開催している茶話会形式の「ぼれぼれカフェ」を、2018 年度も継続開催します。アフリカやタンザニア、当会の活動に関わりのあることをテーマにし、3～4回の開催を予定します。またこれとは別に、1～2回のメンバー懇親会を開催します。

4. ホームページのリニューアル

- (1) 活動年数の経過とともに現在のホームページが煩雑さを増し、見づらくなってきています。そこで「シンプル」、「分かりやすい構造」を基本コンセプトに、新たなホームページに完全リニューアルを行います。
- (2) 現在運用しているフェースブック、ツイッターについて、自動投稿などを取り入れ、発信頻度と訴求効果の向上を目指します。
- (3) SNS として新たにInstagramの活用を開始します。



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 1-28-15 サライトハイツ 301 号室

(Tel/Fax) 03-3439-4847、(郵便振込口座) 00150-7-77254

(E-mail) pole2club@hotmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>

(本部) 〒107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103